日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin
2018年（平成30年）
5月14日（月）
第19468号
Since 1936

関東広域ネットワーク

鎌倉製作所 身体冷却システムPR

国際ウエルディングショー出展 鉄鋼業の関心高く

産業用換気装置の鎌倉製作所（本社＝東京都港区、堀江威史社長）は、「2018国際ウエルディングショー」に出展し、販促に注力している身体冷却システム「COOLEX（クーレックス）」シリーズをPRした。昨年1月から販売を開始した同シリーズは空間全体ではなく作業者だけをピンポイントで冷却する。1年間で多くの問い合わせがあり、鉄鋼業界からの関心や受注が最も多く、高炉や電炉、製鉄所などで採用が相次いだ。

「金属業界への認知はかなり上がってきた。今年度からは全国の営業所でも製品を扱えるように体制を整え、全国的に拡販を強化していく」（COOLEX事業部・木野良太課長）。今月22日から開催される「2018地球温暖化防止展」では、新タイプを披露する予定となっている。

同シリーズは小型チラーで約10℃まで冷やした冷水をウェア内で循環させる仕組みで、炉前作業、溶接作業、鋳造・鍛造作業などの酷暑現場を想定している。40℃を超える酷暑環境や輻射熱が発生する現場、風を嫌う現場、湿度が高い現場ではこれまで対策が難しかった。1人当たり消費電力は180ワットで、大幅な省エネを実現。1人用のスポットクーラーに比べて消費電力は約2割に抑えられる。軽量設計で持ち運びも可能。スポットクーラーに比べ作業範囲が半径4メートルと広く（要望に応じて8メートルまで延長に対応）、排熱も少ない。蒸気が発生する高湿環境（湿度85％以下）でも使用可能にした。「デモを行いながら、お客様の意見を伺い製品を改良していった」。製品のラインアップも充実させ、製鉄所の炉前作業や、鋳造、鍛造、溶接作業の現場に適した酷暑環境タイプ「COOLEX－1」のほか、一般的な暑熱環境（40℃以下）に対応しコストダウンを実現した「COOLEX－Light」、1台で複数名を同時冷却できる「COOLEX－Multi」を取りそろえる。ウェアは作業がしやすいように首元の形状を変え、鉄鋼業から人気の自己消火性や非溶融性に優れた「難燃素材」も用意している。

金属業界で高い関心が寄せられている

工場換気で初セミナー

防暑対策など基礎知識解説

鎌倉製作所は、このほど本社で「工場換気の基礎知識～防暑対策としての換気について～」と題したセミナーを行った。同社としては初めての試みで、一般的な換気方式の種類、給気・排気口の取り方、換気ファンの設置場所などについて、同社営業部・エネルギー管理士の岩田圭一氏が詳細な資料を基に分かりやすく解説した。当初の予想を上回る数の受講者たちが解説に耳を傾け、質疑応答も強い関心を持って行われた。

解説する岩田氏

岩田氏は「防暑対策として効果的な換気を行うには、温度の低くなる位置や冷やしたい場所に給気し、温度の高くなる位置から排気し、部屋全体に風の流れを作って熱だまりになる場所をなくすことが重要だ。大きな工場全体を冷やす必要はない」とした。

同氏は作業者のいる低所の作業域だけに的を絞って給気し、高所の熱気を屋上の換気扇で排出することを推奨し、「作業域にだけ的を絞り集中的に涼風を供給するには、気化熱を利用した当社のクールシリーズが活用でき、また高所での熱気の換気には同じく当社のルーフファンが有効活用できる」と紹介した。

また、熱負荷の高い工場で低層だけ冷やすのも困難な場合は、作業者にいる位置に直接風を当てることが有効な防暑対策とした。

「換気のトップメーカーとして、ファンを販売するだけでなく、ユーザーのニーズに合わせた換気システムの提案・コンサルティングも行っている。当社の強みでもあるので、気軽に相談してほしい」とした。

質疑応答では、「一般的な工場で騒音が問題になったことはないか」「エアコンとの併用は可能か」「建物の構造だけでも防暑対策はできるか」――など、ほとんどの出席者からさまざまな質問が相次いだ。

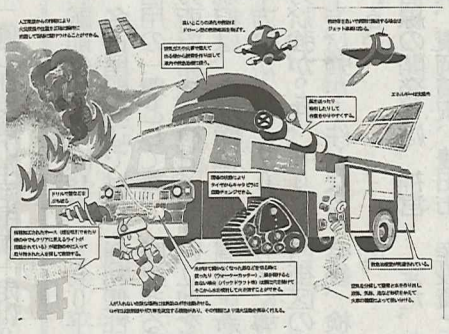
同社営業部は「実際に工場を見て、これだけ機械を入れれば何度下がるだろうということは、無償で提案させて頂いている。騒音なども問題になったことはなく、より良い作業空間を提供させて頂いている」とした。

同社は1951年会社設立以来、主力製品ルーフファンの販売台数はすでに100万台を突破するなど、換気のトップメーカーとしての地位を確立。今後も換気についての啓蒙や提案を行っていく。

「未来の消防車」コンテスト実施

モリタ 全国小学校から1130作品

消防車メーカーのモリタグループは、「第13回未来の消防車アイデアコンテスト」を実施した。全国の小学生から1130作品の応募があり、厳正な審査の結果、神奈川県相模原市在住の小学6年生（応募当時）、中条匠晴さんの作品が最優秀賞に選ばれた。


最優秀賞作品

同コンテストは、全国の小学生を対象に夢のある「未来の消防車」をテーマに作品を募集するもの。最優秀賞に選ばれた中条さんにはモリタオリジナルグッズプレゼントのほか、モリタ三田工場（兵庫県三田市）に招待する。三田工場は日本最大級の消防車製造・メンテナンス工場で、国内の消防車の過半数がここで誕生している。

16日から3日間 企業立地フェア

首都圏自治体も出展

「企業立地フェア2018」（主催＝一般社団法人日本経営協会）が今週16日から3日間、東京ビッグサイトで開催される。今回のテーマは「オリジナリティで勝負するこれからの企業誘致」で、首都圏からは、千葉県や栃木県に加え、茨城県の境町が参加する。

今回は、全国から31の自治体・団体が出展。その中で、千葉県は、東京湾アクアラインやつくばエクスプレスを活かした新たな街づくりを柱に立地性の良さをアピールする。

また、栃木県は、同県企業立地促進協議会として、東京圏に近接している点や各種優遇制度を紹介する。